

側方流動の抑制対策の解析結果一覧表

断面	ケース		x=0 m(護岸位置)					x=25 m					x=50 m							
			水平変位	鉛直変位				水平変位	鉛直変位				水平変位	鉛直変位						
				FLIP 結果 残留変位	FLIP 結果 残留変位	消散 沈下量 (-:沈下)	広域地盤 沈降量 (-:沈下)		合計 沈下量 (-:沈下)	FLIP 結果 残留変位	FLIP 結果 残留変位	消散 沈下量 (-:沈下)		広域地盤 沈降量 (-:沈下)	合計 沈下量 (-:沈下)	FLIP 結果 残留変位	FLIP 結果 残留変位	消散 沈下量 (-:沈下)	広域地盤 沈降量 (-:沈下)	合計 沈下量 (-:沈下)
CASE1	現況		-1.53m (1.00)	-0.32m	-0.01m	-0.28m	-0.61m (1.00)	-1.22m (1.00)	-0.43m	-0.14m	-0.28m	-0.85m (1.00)	-0.70m (1.00)	-0.33m	-0.28m	-0.28m	-0.89m (1.00)			
	対策	背後 0-50m	-1.03m (0.67)	-0.26m	-0.02m		-0.56m (0.92)	-1.07m (0.88)	-0.10m	-0.01m		-0.39m (0.46)	-1.05 <sup>※2</sup>	-0.04 <sup>※2</sup>	-0.01m		-0.33m (0.37)			
		護岸直下	-1.21m (0.79)	-0.01m	-0.02m		-0.31m (0.51)	-0.69m (0.57)	-0.57m	-0.21m		-1.06m (1.25)	-0.51 (0.73)	-0.24	-0.14m		-0.66m (0.74)			
CASE2	現況		-1.89m (1.00)	-0.45m	-0.02m		-0.28m	-0.75m (1.00)	-1.69m (1.00)	-0.41m		-0.06m	-0.28m	-0.75m (1.00)	-1.10m (1.00)		-0.62m	-0.13m	-0.28m	-1.03m (1.00)
	対策	背後 0-50m	-1.43 (0.76)	-0.95m	-0.02m			-1.25m (1.67)	-1.49m (0.88)	-0.27m		0.00m		-0.55m (0.73)	-1.46m <sup>※2</sup> (1.33)		0.00m <sup>※1,2</sup>	0.00m		-0.28m (0.27)
		背後 50-100m	-1.07m (0.57)	-0.39m	-0.01m			-0.68m (0.91)	-0.91m (0.54)	-0.17m		-0.02m		-0.47m (0.63)	-0.64m <sup>※2</sup> (0.58)		-0.03m <sup>※2</sup>	0.00m <sup>※2</sup>		-0.31m (0.30)
		護岸直下	-0.45m (0.24)	0.00m	0.00m	-0.28m (0.37)		-0.25m (0.15)	-0.18m	-0.05m	-0.51m (0.68)	-0.21m (0.19)		-0.07m	-0.12m	-0.47m (0.46)				
CASE3	現況		-0.31m (1.00)	0.00m <sup>※1</sup>	0.00m	-0.28m	-0.28m (1.00)	-0.01m (1.00)	-0.02m	-0.10m	-0.28m	-0.40m (1.00)	0.00m (1.00)	-0.01m	-0.10m	-0.28m	-0.39m (1.00)			
	対策	背後 0-25m	-0.07m (0.23)	-0.02m	-0.10m		-0.40m (1.43)	-0.03m <sup>※2</sup> (3.00)	-0.05m <sup>※2</sup>	0.00m		-0.33m (0.83)	+0.01m (-)	-0.02m	-0.10m		-0.40m (1.03)			

※1:+0.03~0.06m 浮き上る残留変位となったため、浮き上りは考慮せず、残留沈下量=0.00mとして評価した。

※2:背後地盤対策工ケースでは、節点に対策範囲と無対策範囲の境界に位置する場合、境界の影響を除くために隣接節点または要素の値により評価する。

※:ハッチングしたセルの値が最終的な(過剰間隙水圧消散後の)変位量

※:括弧内の数値は現況を 1.00 とした時の比率